



# みらいつうしん

## 6月号

2022年6月1日  
田園調布学園大学  
みらいこども園  
園長 勝浦芳子

### 安全で安心できる園生活

紫陽花が美しく咲く季節となりました。子ども達も、園生活に大分慣れ、表情や行動が豊かになってきました。朝の正門の出迎えでは、「園長先生おはよう！」と挨拶した後にタッチするというコミュニケーションをとるお子さんも多くなり、少しずつ心を開いてくれるようになったのかな？と、嬉しく思うと同時に毎日の積み重ねの大切さを痛感しています。6月は、梅雨入りしますと、毎日じめじめする日が続く、園庭での遊びが少なくなりますので、「お庭に行きたいよー」「好きな遊びが出来ないよー」と不満やイライラ感が生れ易くなり、子ども達の心も曇り空に…。少しでも、雨の日は、子ども達が晴れやかな気持ちで室内遊びができるよう、安全で楽しい環境づくりの工夫をしていきたいと思えます。

さて、進級、入園から2か月が経ち、それぞれの好きなことや居場所を見つけ始めている姿が見られます。一見落ち着いたかのように感じられますが、この時期の子ども達の心も、紫陽花の花が、繊細に色代わりするかの如く、急に甘えたり、駄々をこねたりして、「自分の気持ちを理解してくれる人？」「大切に対応してくれる人かな？」と、周囲の大人の何気ない行動や言葉かけによって、心が揺れ動きます。また、友達の間でも、遊んでいる時に、自分の気持ちをうまく表現できず、けんかやイライラが生じることも増えてきて、ケガなどに繋がることもあります。

園生活の中での遊びは、楽しさだけではなく、人との関わり方やルール、規範意識も学びますが、習得するにはまだまだ時間がかかります。園での様子は、なるべく丁寧に保護者の方に伝えられるよう努力しておりますが、時に、園からの情報が不足すると、帰宅したお子さんの様子がいつもと違うと感じた時は、保護者の方からすれば、『家の子、ちゃんとみてもらっているかしら？』『園で何かあったの？』『先生からは何も聞かされていないけど』と不信感を持たれることもあると思います。常日頃から私たち保育者は、子どものことを第一に考えて、「どうして、この子は、今こういう行動をするのか、よく子どもの心の奥を見ましよう。自分から歩み寄って保育をしましよう。と声を掛け合い、一日の反省をして次の保育に反映できるようにしています。お互いの信頼関係の構築は、一朝一夕にはできるものではありませんが、子どもを大切に思う気持ちは、皆一緒だと思いますので、子どもにとって、「いつも声をかけてくれる」「話を真剣に聞いてくれる」「一緒に笑ってくれる」「抱っこしてくれる」「手をつないでくれる」「ケガをしたら、優しく手当してくれる」など、大人の積極的な態度、共感やスキンシップを根気よく続けることが肝心です。お子さんが、大好きな先生や友達のことをご家庭でも話題にし、園に喜んで登園する姿やお子さんの成長が感じられることを心から祈ります。どうぞご家庭でもお子さんの一番の理解者でいていただき、紫陽花の花言葉には「強い絆で結ばれる」という意味もありますので、職員一同、お子さんや保護者の方との「強い絆」を結んでいきたいと思えます。今後も、ご理解ご協力をお願いいたします。また、新型コロナウイルス感染の方は、大分落ち着いてきましたが、雨の多い蒸し暑い日が続きますと、何かと体調を崩しやすくなりますので、お身体には十分ご自愛ください。

